

(書式 2)

学会参加報告書

提出日 2019年 5月22日

学籍番号	18pma25	所属	体育科学研究科 健康科学・スポーツ医科学系
氏名	若林 幸郁		
学会等名 (正式名称)	Cell Symposia Exercise Metabolism		
開催日程	2019年 5月 7日 ~ 2019年 5月 9日		
開催場所 (国・都市名)	スペイン・シツェス		
発表演題名	Increased mitochondrial H ₂ O ₂ emissions in ALDH2 deficient mice skeletal muscles		
参加報告 ・項目別に具体的に記載する。	<p><学会の全体の印象> ACSMやEBと比べると小さな学会ではあるが著名人が多数演説者となっていたため、とても貴重な発表を聞くことができた。研究内容も最新の運動生理学に特化しており有意義なものであった。今回はサーカディアンリズムや様々な運動処方、妊娠マウスにおける母体からの影響についてのお話など、多数聞くことができた。特に、ミトコンドリアに関する研究が多かったように思った。</p> <p><自分の研究と関連した発表とその内容> 我々の研究ではミトコンドリア スーパーコンプレックス分析をすでに取り入れており、今回の内容はとても重要なものとなった。オーサーは C57BL/6J マウスと DBA/2J マウスを掛け合わせることでよりヒトに近い BXD マウスを生み出した。そのマウスを用いた研究報告によると、スーパーコンプレックス分析にて重要なタンパク質である Cox7a2l タンパク質の発現量の解析した結果、運動により骨格筋、心筋サンプルにて上昇したようだ。つまり我々は主に骨格筋に関する研究しているが今まで、これからの研究内容の重要性が衰げられたと実感した。</p> <p><自身の発表への質問・コメント> 本研究は、骨格筋のミトコンドリアに着目している。その一部でミトコンドリアのネットワークを観察した。その画像に対しての質問が多く寄せられた。画像の説明や見方、これらの測定方法といった質問である。本研究では筋線維一本一本を染色し膜電位を染色し、蛍光顕微鏡での解析をしている。ディスカッションを通し、電子顕微鏡での解析をして、ミトコンドリア単体の動きも観察してみたいと思った。</p>		

※ 補助金を受けた学生はこの学会参加報告書を提出すること。

提出期限は学会終了後2週間以内とする。

本報告書は学会参加報告書として日本体育大学総合スポーツ科学研究センターホームページ内に掲載されます。